

夜寂しい思いさせないよ

最長午前3時半まで 保育サービス

放課後児童クラブや認可外保育施設などを運営する有限会社「いっしょに子育て研究所」(松江市西津田2)が、夜間保育サービスを始めた。夜間の飲食店などに勤める一人親家庭や共働き世帯を対象に、最長で午前3時半まで預かる。明け方まで預かっていた市内唯一の託児所が昨年末に閉園し、市から相談を受けた同社が利用者を引き継いだという。

(北瀬太一)

年齢の対象は生後3か月から小学生までで、中学生は要相談。時間は原則、日祝などの休園日を除き、午後5時半～翌午前3時となる。通常利用の料金は、市内在住の0歳児で月額5万円。1日だけでも利用でき、12日現在、市内の1歳～小学6年生の16人が登録し、毎日5人前後が通う。

現状は、保育士資格を持つ職員らが2人体制で対応し、就寝時間は午後9時半頃。2歳以下は窒息を防ぐため5分おきに顔の向きを確認する必要があるが、職員は不眠で対応する。3月下旬には近くに完成する新施設へ移転し、入浴サービスや食事も可能になる。

きっかけは、深夜帯に対応していた市内の託児所が経営難で閉園することになり、松江市から夜間保育を

打診されたことだ。「経営的に厳しい」と一度は断ったが、利用者から「夜間の留守番練習をさせるしかない」と相談を受けた。



利用者の子どもと遊ぶ職員(松江市で)

松江の会社 赤字覚悟で開始

い」などの声が上がっていたといい、1月から赤字覚悟で始めた。

ただ、収支の見通しはやはり厳しい。月の経費は人件費と光熱費で100万円前後。一方、利用者は1日5人前後で、当面は月50万円前後の赤字が生じる計算だ。同社は今後、利用者を広く募ることも、1時間単位でも利用できることから企業向けの福利厚生としてPRする考えという。

市も、夜間の利用者1人につき1日当たり600円を支給していた従来の補助制度を見直し、1月からは1日当たり1200円に増額。市保育所幼稚園課は「夜間保育の需要が一定あることは把握しており、今後も支援を続けたい」としている。

2歳の長男を預けている女性(41)は「松江市内では、夜間のベビーシッターも簡単に見つからない。未明まで預かってくれる施設はここしかないのです、ありがた」と笑顔。子育て研究所の宮原孝司社長は「寂しい思いをする子が出ないよう、これからも続けたい」と話している。